

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|---|---|-----|
| 科目名 | ITの職業と情報倫理 | |
| 担当教員の実務経験 | | |
| 対象学生 | 心理福祉学科・社会福祉学科・総合福祉学科 1年生 | |
| 授業時間数・単位数 | 10 コマ ・ 1 単位 | |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [] | |
| 授業の概要 | 専門学校入学直後の導入科目として、これからの学習への動機付けと、安全のための情報モラル教育を行う。 | |
| 授業の到達目標 | 情報化社会において、被害者や加害者にならないための知識を学び、情報モラルを身につけ、情報機器を有効に活用できるようになること。 | |
| 成績評価方法と基準 | 出席状況及び科目試験の成績により評価する。A:80～ B:60～79 C:40～59 D:40未満 | |
| 準備学習・時間外学習 | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | ITの職業と情報倫理（SCC：学習ノート） | |
| 授業上の注意点 | | |
| | 授業計画（内容） | コマ数 |
| (1) ITの発展と社会 | | 1 |
| (2) インターネットの基礎知識 | | 1 |
| (3) IoTとAI | | 1 |
| (4) ITの職業と資格 | | 1 |
| (5) IT社会のトラブル ITを使った詐欺、情報漏洩、依存症 | | 1 |
| (6) 情報セキュリティ 個人情報の種類と法律、情報を守る技術 | | 1 |
| (7) コンピュータウイルス マルウェアの種類と被害、対策方法 | | 1 |
| (8) 情報の捉え方 フェイクニュースや情報操作など糸のある発信の見分け方 | | 1 |
| (9) 情報発信のルール 悪ふざけの投稿や誹謗中傷の代償、名誉棄損などの法律 | | 1 |
| (10) 著作権 知的財産権の体系、守るべきルール | | 1 |
| (1) ITの発展と社会 | | 1 |
| (2) インターネットの基礎知識 | | 1 |
| | 合計 | 10 |
| | 授業単位数 | 1 |

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|--------------|---|------|
| 科目名 | ビジネスアプリケーション実習 | |
| 担当教員の実務経験 | | |
| 対象学生 | 総合福祉学科1年生 | |
| 授業時間数・単位数 | 75コマ | 5 単位 |
| 授業方法 | 講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [○] | |
| 授業の概要 | Microsoft WordおよびExcelの基本操作方法を習得する。 | |
| 授業の到達目標 | 適切な書式設定を行い、表や画像をレイアウトした文書が作成できる。 数式やグラフを用いてデータを正しく活用した書類を作成できる。 サーティファイ文書処理技能認定試験3級、データ処理技能認定試験3級の合格を目指す。 | |
| 成績評価方法と基準 | 出席・授業態度、課題提出、目標試験の結果を総合的に評価 | |
| 準備学習・時間外学習 | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 30時間でマスターWord2016、サーティファイWord2016文書処理能力認定試験3級問題集 30時間でマスターExcel2016、サーティファイExcel2016データ処理能力認定試験3級問題集 | |
| 授業上の注意点 | 欠席しないこと。 | |
| | 授業計画（内容） | コマ数 |
| | Wordの基本操作とタイピング | 1 |
| | 文章の入力 | 1 |
| | 文書の保存と読み込み | 1 |
| | 文書の印刷 | 1 |
| | 複写・削除・移動 | 1 |
| | 編集機能（1） | 1 |
| | 編集機能（2） | 1 |
| | 表の編集 | 1 |
| | 画像・テキストボックスの挿入 | 1 |
| | 画像の利用 | 1 |
| | ワードアート | 1 |
| | 図形描画 | 1 |
| | スマートアート | 1 |
| | 段組み・ドロップキャップ・ページ罫線 | 1 |
| | 応用活用実習 | 6 |
| | 3級試験対策（Word） | 10 |
| | Excelの基本操作、合計の計算 | 1 |
| | ファイルの保存と呼び出し、印刷、グラフの作成と印刷 | 1 |
| | 連続データの入力（オートフィル）、行、列の削・挿入・移動、編集 | 1 |
| | 列幅・行の高さの変更、AVERAGE関数、計算式の複写とセル番地の相対参照 | 1 |
| | 表示形式の変更（1）、文字位置の指定、便利なデータ入力、 | 1 |

| | |
|--|-------|
| 罫線、オートカルク・セルのスタイル | 1 |
| セル番地の絶対参照、表示形式の変更（2） | 1 |
| 文字属性の変更、最大・最小（MAX・MIN関数） | 1 |
| COUNT・COUNTA関数、 | 1 |
| ROUND・ROUNDUP・ROUNDDOWN関数 | 1 |
| IF関数とネスト、条件付き書式、スパークライン | 1 |
| 棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、3-Dグラフ、複合グラフ、ドーナツグラフ、レーダー | 1 |
| 散布図、絵グラフ、いろいろなグラフ、データベース入門 | 1 |
| データの並べ替え、データの検索と置換、データの抽出 | 1 |
| 条件の書き方、データの集計 | 1 |
| 応用活用の実習 | 10 |
| 3級試験対策（Excel） | 10 |
| ビジネス文書演習 | 10 |
| | 合計 |
| | 75 |
| | 授業単位数 |
| | 5 |

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|--------------|---|-----|
| 科目名 | 人間の理解（介護職員資格講座） | |
| 担当教員の実務経験 | 通所介護事業所勤務介護員経験 | |
| 対象学生 | 総合福祉学科1年生 | |
| 授業時間数・単位数 | 15コマ | 1単位 |
| 授業方法 | 講義 [○] ・ 演習 [] ・ 実習 [] | |
| 授業の概要 | 介護福祉士実務者研修の中の人間と社会領域としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。 | |
| 授業の到達目標 | 福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点及び専門職としての基盤となる倫理観がわかる。また、対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する。 | |
| 成績評価方法と基準 | 介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。 | |
| 準備学習・時間外学習 | 授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。 | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 中央法規「最新介護福祉士養成講座 第1巻 人間の理解」 | |
| 授業上の注意点 | 提出課題の合格が必須 | |
| | 授業計画（内容） | コマ数 |
| | 1. 人間の理解（人間の多面的理解） | 1 |
| | 2. 人間の尊厳と個人の尊厳 | 1 |
| | 3. 人権尊重 | 1 |
| | 4. 自立の概念 | 1 |
| | 5. 自立と権利擁護 | 1 |
| | 6. 権利擁護の歴史的経緯 | 1 |
| | 7. 権利侵害の現状と背景 | 1 |
| | 8. 権利擁護、尊厳の保持に関する現状（諸規定） | 1 |
| | 9. 権利擁護、尊厳の保持に関する現状（制度政策） | 1 |
| | 10. 介護における尊厳の保持（職業倫理） | 1 |
| | 11. 対象者を理解する視座 | 1 |
| | 12. 介護実践におけるチームマネジメントの意義 | 1 |
| | 13. ケアを展開するためのチームマネジメント | 1 |
| | 14. 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント | 1 |
| | 15. 組織の目標達成のためのチームマネジメント | 1 |
| | 合計 | 15 |
| | 授業単位数 | 1 |

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|--------------|--|-----|
| 科目名 | 社会の理解 I (介護職員資格講座) | |
| 担当教員の実務経験 | 通所介護事業所勤務介護員経験 | |
| 対象学生 | 総合福祉学科1年生 | |
| 授業時間数・単位数 | 15コマ | 1単位 |
| 授業方法 | 講義 [O] ・ 演習 [] ・ 実習 [] | |
| 授業の概要 | 介護福祉士実務者研修中の人間と社会領域としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。 | |
| 授業の到達目標 | 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉えることができる。 対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する。 | |
| 成績評価方法と基準 | 介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。 | |
| 準備学習・時間外学習 | 授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。 | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 中央法規「最新介護福祉士養成講座 第2巻 社会の理解」 | |
| 授業上の注意点 | 提出課題の合格が必須 | |
| | 授業計画 (内容) | コマ数 |
| | 1. 社会と生活のしくみ | 1 |
| | 2. 社会・組織の機能と役割 | 1 |
| | 3. 地域・地域社会 | 1 |
| | 4. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策 | 1 |
| | 5. 地域共生社会と地域包括ケア | 1 |
| | 6. 社会保障の基本的な考え方 | 1 |
| | 7. 日本の社会保障制度のしくみ (年金保険) | 1 |
| | 8. 日本の社会保障制度のしくみ (年金保険) | 1 |
| | 9. 日本の社会保障制度のしくみ (年金保険) | 1 |
| | 10. 日本の社会保障制度のしくみ (年金保険) | 1 |
| | 11. 高齢者保健福祉の概要 | 1 |
| | 12. 介護保険制度① | 1 |
| | 13. 介護保険制度② | 1 |
| | 14. 介護保険制度③ | 1 |
| | 15. 介護保険制度④ | 1 |
| | | |
| | 合計 | 15 |
| | 授業単位数 | 1 |

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|---------------------------------|---|-----|
| 科目名 | 社会の理解Ⅱ（介護職員資格講座） | |
| 担当教員の実務経験 | 通所介護事業所勤務介護員経験 | |
| 対象学生 | 総合福祉学科1年生 | |
| 授業時間数・単位数 | 15コマ | 1単位 |
| 授業方法 | 講義 [○] ・ 演習 [] ・ 実習 [] | |
| 授業の概要 | 介護福祉士実務者研修の中の人間と社会領域としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。 | |
| 授業の到達目標 | 介護福祉士実務者研修の中の「人間の尊厳と自立」「社会の理解Ⅰ」「社会の理解Ⅱ」に関する課題・問題を解ける。 | |
| 成績評価方法と基準 | 介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。 | |
| 準備学習・時間外学習 | 授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。 | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 中央法規「最新介護福祉士養成講座 第2巻 社会の理解」 | |
| 授業上の注意点 | 提出課題の合格が必須 | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| 1. 障害の概念・我が国における障害者の法的定義と障害者の概数 | | 1 |
| 2. 障害者保健福祉の動向 | | 1 |
| 3. 障害者保健福祉に関連する法体系 | | 1 |
| 4. 障害者総合支援制度① | | 1 |
| 5. 障害者総合支援制度② | | 1 |
| 6. 障害者総合支援制度③ | | 1 |
| 7. 個人の権利を守る制度・施策① | | 1 |
| 8. 個人の権利を守る制度・施策② | | 1 |
| 9. 個人の権利を守る制度・施策③ | | 1 |
| 10. 保健医療に関する制度・施策① | | 1 |
| 11. 保健医療に関する制度・施策② | | 1 |
| 12. 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策① | | 1 |
| 13. 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策② | | 1 |
| 14. 地域生活を支援する制度・施策① | | 1 |
| 15. 地域生活を支援する制度・施策② | | |
| 合計 | | 15 |
| 授業単位数 | | 1 |

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|--|--|-----|
| 科目名 | 介護の基本Ⅰ（介護職員資格講座） | |
| 担当教員の実務経験 | 特別養護老人ホーム、通所介護事業所 | |
| 対象学生 | 総合福祉学科1年生 | |
| 授業時間数・単位数 | 15コマ | 1単位 |
| 授業方法 | 講義 [○] ・ 演習 [] ・ 実習 [] | |
| 授業の概要 | 介護福祉士実務者研修の中の介護領域としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。 | |
| 授業の到達目標 | 介護福祉士実務者研修の中の「介護」に関する課題・問題を解ける。 | |
| 成績評価方法と基準 | 介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。 | |
| 準備学習・時間外学習 | 授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。 | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 中央法規「最新介護福祉士養成講座 第3巻 介護の基本」 | |
| 授業上の注意点 | 提出課題の合格が必須 | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| 1. 介護福祉士の制度 | | 1 |
| 2. 自立に向けた介護の考え方と展開 | 〃 | 1 |
| 3. 介護福祉に求められる個別支援と尊厳の保持 | | 1 |
| 4. 介護福祉士の倫理 | | 1 |
| 5. 介護を必要とする人の生活の理解と支援①「その人らしさ」の理解 | | 1 |
| 6. 介護を必要とする人の生活の理解と支援②高齢者の暮らしと支援の実際 | | 1 |
| 7. 介護を必要とする人の生活の理解と支援③障害のあり人の暮らしと支援の実際 | | 1 |
| 8. 介護実践における連携～多職種連携① | | 1 |
| 9. 介護実践における連携～多職種連携② | | 1 |
| 10. 介護実践における連携～地域連携 | | 1 |
| 11. 介護における安全の確保とリスクマネジメント ①事故防止と安全対策 | | 1 |
| 12. 介護における安全の確保とリスクマネジメント ②感染対策 | | 1 |
| 13. 介護福祉士の安全 ①健康管理に必要な知識と技術 | | 1 |
| 14. 介護福祉士の安全 ②介護従事者の労働環境の整備 | | 1 |
| 15. まとめ | | 1 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | 合計 | 15 |
| | 授業単位数 | 1 |

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|---|---|-----|
| 科目名 | コミュニケーション技術Ⅰ（介護職員資格講座） | |
| 担当教員の実務経験 | 介護福祉士養成施設教員 | |
| 対象学生 | 総合福祉学科1年 | |
| 授業時間数・単位数 | 15コマ | 1単位 |
| 授業方法 | 講義 [○] ・ 演習 [] ・ 実習 [] | |
| 授業の概要 | 今後ますます増えると予想される認知症高齢者の医学的・心理的理解を深め、ケア理念や日常生活支援の基本的視点を踏まえた介護実践を理解する。 | |
| 授業の到達目標 | 認知症ケアの基本的知識を深める。 | |
| 成績評価方法と基準 | 出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価 | |
| 準備学習・時間外学習 | 授業で学習したことを日常生活においても意識して活用してみましょう。 | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 最新 介護福祉士養成講座テキスト 第5巻「コミュニケーション技術」 | |
| 授業上の注意点 | | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| 1. 介護におけるコミュニケーションとコミュニケーションの対象 | | 1 |
| 2. 援助関係とコミュニケーション | | 1 |
| 3. コミュニケーションの基本技術 ①コミュニケーション態度に関する基本技術 | | 1 |
| 4. コミュニケーションの基本技術 ②目的別のコミュニケーション技術 | | 1 |
| 5. コミュニケーションの基本技術 ③集団におけるコミュニケーション技術 | | 1 |
| 6. コミュニケーション障害の理解 | | 1 |
| 7. さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援 ①視力の障害に応じたコミュニケーション技術 | | 1 |
| 8. さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援 ②聴力の障害に応じたコミュニケーション技術 | | 1 |
| 9. さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援 ③高次脳機能障害に応じたコミュニケーション技術 | | 1 |
| 10. さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援 ④失語障に応じたコミュニケーション技術 | | 1 |
| 11. さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援 ⑤構音障害に応じたコミュニケーション技術 | | 1 |
| 12. さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援 ⑥認知症に応じたコミュニケーション技術 | | 1 |
| 13. 会議・議事進行・説明の技術 | | 1 |
| 14. 事例検討に関する技術 | | 1 |
| 15. 情報の活用と管理のための技術 | | 1 |
| | 合計 | 15 |
| | 授業単位数 | 1 |

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|-----------------------------|--|-----|
| 科目名 | 生活支援技術Ⅰ（介護職員資格講座） | |
| 担当教員の実務経験 | 特別養護老人ホーム、通所介護事業所 | |
| 対象学生 | 総合福祉学科1年生 | |
| 授業時間数・単位数 | 15コマ | 1単位 |
| 授業方法 | 講義 [○] ・ 演習 [] ・ 実習 [] | |
| 授業の概要 | 介護福祉士実務者研修の中の介護領域としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。 | |
| 授業の到達目標 | 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活ができるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。 | |
| 成績評価方法と基準 | 介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。 | |
| 準備学習・時間外学習 | 授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。 | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 中央法規「最新介護福祉士養成講座 第6巻 生活支援技術Ⅰ、第7巻 生活支援技術Ⅱ」 | |
| 授業上の注意点 | 提出課題の合格が必須 | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| 1. 生活支援とICF | | 1 |
| 2. 居住環境の整備と福祉用具の活用 | | 1 |
| 3. 移動・移乗の介護技術の基本 | | 1 |
| 4. 食事の介護技術の基本 | | 1 |
| 5. 入浴・清潔保持の介護技術の基本①清拭 | | 1 |
| 6. 入浴・清潔保持の介護技術の基本②入浴・部分浴 | | 1 |
| 7. 排泄の介護技術の基本 | | 1 |
| 8. 衣類着脱の介護技術の基本 | | 1 |
| 9. 整容の介護技術の基本 | | 1 |
| 10. 口腔清潔の介護技術の基本 | | 1 |
| 11. 家事援助の基本①生活と家事の理解①調理・買い物 | | 1 |
| 12. 家事援助の基本②洗濯 | | 1 |
| 13. 家事援助の基本③掃除・ごみ捨て | | 1 |
| 14. 家事援助の基本④衣類の補修・裁縫 | | 1 |
| 15. 家事援助の基本⑤衣類・寝具の衛生管理 | | 1 |
| | | |
| | | |
| | 合計 | 15 |
| | 授業単位数 | 1 |

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|--------------|--|-----|
| 科目名 | 生活支援技術Ⅱ（介護職員資格講座） | |
| 担当教員の実務経験 | 特別養護老人ホーム、通所介護事業所 | |
| 対象学生 | 総合福祉学科1年生 | |
| 授業時間数・単位数 | 30コマ | 2単位 |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [] | |
| 授業の概要 | 介護福祉士実務者研修の中の介護領域としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。 | |
| 授業の到達目標 | 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活ができるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。 | |
| 成績評価方法と基準 | 介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。 | |
| 準備学習・時間外学習 | 授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。 | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 中央法規「最新介護福祉士養成講座 第6巻 生活支援技術Ⅰ、第7巻 生活支援技術Ⅱ」 | |
| 授業上の注意点 | 試験の合格が必須 | |
| | 授業計画（内容） | コマ数 |
| | 1. 自立に向けた移動・移乗の介助 | 3 |
| | 2. 自立に向けた身じたくの介護（洗顔、整髪、髭剃り、爪の手入れ、耳の清潔、化粧） | 2 |
| | 3. 自立に向けた身じたくの介護（口腔ケア） | 1 |
| | 4. 自立に向けた身じたくの介護（衣服の着脱の介助） | 1 |
| | 5. 自立に向けた食事の介護 | 1 |
| | 6. 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 | 1 |
| | 7. 自立に向けた排泄の介護 | 2 |
| | 8. 休息・睡眠の介護 | 2 |
| | 9. 人生の最終段階における介護 | 2 |
| | 10. まとめ | 1 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | 合計 | 30 |
| | 授業単位数 | 2 |

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|--------------------------------|---|-----|
| 科目名 | 介護過程Ⅰ（介護職員資格講座） | |
| 担当教員の実務経験 | 特別養護老人ホーム、通所介護事業所 | |
| 対象学生 | 総合福祉学科1年生 | |
| 授業時間数・単位数 | 15コマ | 1単位 |
| 授業方法 | 講義 [○] ・ 演習 [] ・ 実習 [] | |
| 授業の概要 | 介護福祉士実務者研修の中の介護領域の介護過程としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。 | |
| 授業の到達目標 | 介護過程の展開の意義・目的を理解し、そのプロセスについて理解できる。 | |
| 成績評価方法と基準 | 介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。 | |
| 準備学習・時間外学習 | 授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。 | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 中央法規「最新介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程」 | |
| 授業上の注意点 | | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| 1. 介護過程の意義と目的 | | 1 |
| 2. 介護過程の理解（全体像） | | 1 |
| 3. 介護過程の展開～アセスメント（情報収集） | | 2 |
| 4. アセスメント（解釈・関連づけ・統合化） | | 1 |
| 5. 介護計画の立案 | | 1 |
| 6. 介護の実施 | | 1 |
| 7. 評価 | | 1 |
| 8. 介護過程と家アマネジメントの関係性 | | 1 |
| 9. 介護過程とチームアプローチ | | 1 |
| 10. 介護過程の実践的展開（施設で暮らす高齢者の介護過程） | | 1 |
| 11. 介護過程の実践的展開（在宅で暮らす高齢者の介護過程） | | 1 |
| 12. 介護過程の実践的展開（在宅で暮らす障害者の介護過程） | | 1 |
| 13. 演習課題：介護老人福祉施設で生活するTさんの事例 | | 2 |
| | | |
| | 合計 | 15 |
| | 授業単位数 | 1 |

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|-------------------------|---|-------|
| 科目名 | 介護過程Ⅱ（介護職員資格講座） | |
| 担当教員の実務経験 | 特別養護老人ホーム、通所介護事業所 | |
| 対象学生 | 総合福祉学科1年生 | |
| 授業時間数・単位数 | 30コマ | ・ 2単位 |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [] | |
| 授業の概要 | 介護福祉士実務者研修の中の介護領域の介護過程としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。 | |
| 授業の到達目標 | 対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程の展開ができる能力を習得する。 | |
| 成績評価方法と基準 | 介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。 | |
| 準備学習・時間外学習 | 授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。 | |
| 使用教科書・教材・参考書 | | |
| 授業上の注意点 | 提出課題の合格が必須 | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| 1. 介護過程の実践的展開の方法 | | 1 |
| 2. 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 | 事例①（一人暮らしの高齢者の生活支援） | 4 |
| 3. 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 | 事例②（高齢者の在宅復帰支援） | 4 |
| 4. 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 | 事例③（在宅で終末期を迎える高齢者と家族の支援） | 4 |
| 5. 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 | 事例④（医療的な処置を必要な高齢者の生活支援） | 4 |
| 6. 事例で考える利用者の生活と介護過程の実践 | 事例①（片麻痺のある高齢者の生活支援） | 6 |
| 7. 事例で考える利用者の生活と介護過程の実践 | 事例②（視覚に障害のある高齢者の支援） | 6 |
| 8. まとめ | | 1 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | 合計 | 30 |
| | 授業単位数 | 2 |

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|--------------|---|-----|
| 科目名 | こころとからだのしくみ（医学基礎）（介護職員資格講座） | |
| 担当教員の実務経験 | 看護師 | |
| 対象学生 | 社会福祉学科1年、心理福祉学科1年、総合福祉学科1年 | |
| 授業時間数・単位数 | 60コマ ・ 4単位 | |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [] | |
| 授業の概要 | <p>心理学の諸理論に基づき、こころの側面を理解する為に根拠となる知識を習得する。また、こころの側面から対象者の状態を学び、その状態がどのような要因が起因しているのかを理解する。</p> <p>「からだのしくみとはたらき」について、系統的に学習し生体の構造・機能について知識を深め、人間を理解する。</p> | |
| 授業の到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 人間の知覚、学習・記憶、欲求、動機づけ、感情、パーソナリティ、知能、思考、発達、集団など心理学の基礎的事柄を説明できる。 ・ 生体の構造・機能について知識を深める。 | |
| 成績評価方法と基準 | 試験及びレポート80%、学習への取り組み20% | |
| 準備学習・時間外学習 | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 最新介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ／中央法規出版 | |
| 授業上の注意点 | 授業最後のリアクションペーパー提出で出席とする。 | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| 1. | こころとからだのしくみを学ぶ意義 科目オリエンテーション | 1 |
| 2. | 健康について 健康の定義・健康と介護福祉職の役割 | 1 |
| 3. | 人間の欲求について1 人間の欲求の基本的理解 | 1 |
| 4. | 人間の欲求について2 人間の欲求の基本的理解と尊厳 | 1 |
| 5. | 自己実現1 自立への意欲と自己概念の関係 | 1 |
| 6. | 自己実現2 自己実現と尊厳 | 1 |
| 7. | 脳のしくみ 脳の構造について① | 1 |
| 8. | 脳のしくみ2 脳の構造について② | 1 |
| 9. | 認知のしくみ 感覚と知覚 | 1 |
| 10. | 学習・記憶・思考のしくみ1 学習理論と行動理論 | 1 |
| 11. | 学習・記憶・思考のしくみ2 記憶について | 1 |
| 12. | 感情のしくみと意欲、動機づけ | 1 |
| 13. | 適応のしくみ1 パーソナリティ、適応と不適応 | 1 |
| 14. | 適応のしくみ2 ストレス関連の障害について | 1 |
| 15. | 社会性を引き出すところ | 1 |
| 16. | 「こころのしくみ」のまとめ | 1 |
| 17. | からだのしくみの理解 | 1 |
| 18. | 人体の構造と働きの基礎知識・解剖学的用語 | 1 |
| 19. | からだの成り立ち | 1 |
| 20. | 細胞と組織 | 1 |
| 21. | 11種の器官系・ホメオスタシス | 1 |
| 22. | 自律神経系の働き | 1 |

| | | |
|-----|---------------------------------|----|
| 23. | 呼吸のしくみ | 1 |
| 24. | 循環のしくみ | 1 |
| 25. | 生命徴候 | 1 |
| 26. | バイタルサインの計測 | 1 |
| 27. | 様々なストレスに対応するしくみ | 1 |
| 28. | 外界からの有害物質の侵入を避けるしくみ | 1 |
| 29. | 再生と修復のしくみ | 1 |
| 30. | ヒトの一生の理解（形態と機能の変化） | 1 |
| 31. | ヒトの一生の理解（こころとからだの変化） | 1 |
| 32. | 「からだのしくみ」のまとめ | 1 |
| 33. | 移動に関連したこころとからだのしくみ | 1 |
| 34. | 移動に関連する心身の機能低下・障害と生活場面への影響 | 1 |
| 35. | 移動に関連する変化の気づき・観察ポイントと対応 | 1 |
| 36. | 移動に関連する事例から学ぶ利用者の変化と観察ポイント | 1 |
| 37. | 移動に関連する事例から学ぶ対象者への対応（方法） | 1 |
| 38. | 身じたくに関連したこころとからだのしくみ | 1 |
| 39. | 身じたくに関連する心身の機能低下・障害と生活場面への影響 | 1 |
| 40. | 身じたくに関連する変化の気づき・観察ポイントと対応 | 1 |
| 41. | 身じたくに関連する事例から学ぶ対象者の変化と観察ポイント | 1 |
| 42. | 食事に関連したこころとからだのしくみ | 1 |
| 43. | 食事に関連する心身の機能低下・障害と生活場面への影響 | 1 |
| 44. | 食事に関連する事例から学ぶ対象者の変化と観察ポイント | 1 |
| 45. | 食事に関連する事例から学ぶ対象者への対応（方法） | 1 |
| 46. | 「移動・身じたく・食事に関する」こころとからだのしくみのまとめ | 1 |
| 47. | 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ | 1 |
| 48. | 入浴・清潔保持に関連する心身の機能低下・障害と生活場面への影響 | 1 |
| 49. | 入浴・清潔保持に関連する事例から学ぶ利用者への対応（方法） | 1 |
| 50. | 排泄に関連したこころとからだのしくみ | 1 |
| 51. | 排泄に関連する心身の機能低下・障害と生活場面への影響 | 1 |
| 52. | 排泄に関する事例から学ぶ利用者の変化と観察ポイント | 1 |
| 53. | 睡眠に関連したこころとからだのしくみ | 1 |
| 54. | 睡眠に関連する心身の機能低下・障害と生活場面への影響 | 1 |
| 55. | 睡眠に関連する事例から学ぶ対象者の変化と観察ポイント | 1 |
| 56. | 死にゆく人のこころとからだのしくみ | 1 |
| 57. | 死にゆく人の心身の変化と変化の気づき・観察のポイント | 1 |
| 58. | 死にゆく人の心身の変化と変化の気づき・対応 | 1 |
| 59. | 「こころとからだのしくみ」の振り返り・まとめ① | 1 |
| 60. | 「こころとからだのしくみ」の振り返り・まとめ② | 1 |
| | 合計 | 60 |
| | 授業単位数 | 4 |

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|------------------------------|--|-----|
| 科目名 | 認知症の理解 I (介護職員資格講座) | |
| 担当教員の実務経験 | 看護師 | |
| 対象学生 | 総合福祉学科1年 | |
| 授業時間数・単位数 | 15コマ | 1単位 |
| 授業方法 | 講義 [O] ・ 演習 [] ・ 実習 [] | |
| 授業の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 精神疾患および認知症の方に対し、どのように接していくかを目指す。 ・ 認知症ケアの歴史、現状と課題を具体的に述べる事ができる。 | |
| 授業の到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 精神疾患及び認知症を持つことの意味を理解し、認知症の原因・病態・状態・症状等を学ぶ。 ・ 自らの精神保健を振り返り、認知症の方の家族・介護者の健康に配慮ができる。 | |
| 成績評価方法と基準 | 試験及びレポート80%、学習への取り組み20% | |
| 準備学習・時間外学習 | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | <p>【講義時使用テキスト】 最新介護福祉士養成講座 13 認知症の理解／中央法規出版</p> <p>【参考文献】 医学一般／メヂカルフレンド社、得意になる解剖生理／照林社 人体の構造と機能／メディカ出版、体の地図帳／講談社</p> | |
| 授業上の注意点 | 授業最後のリアクションペーパー提出で出席とする | |
| 授業計画 (内容) | | |
| | | コマ数 |
| 1. 科目オリエンテーション | ・ 認知症のある高齢者の現状と今後 | 1 |
| 2. 認知症の人の医学・行動・心理的理解 1 | 1. 認知症の定義・認知症の人の行動や心理、脳の仕組みになどについて | 1 |
| 3. 認知症の人の医学・行動・心理的理解 2 | 1. 認知症の原因疾患などについて | 1 |
| 4. 認知症の人の医学・行動・心理的理解 3 | | 1 |
| 5. 認知症の人の医学・行動・心理的理解 4 | 1. 認知症の原因疾患などについて | 1 |
| 6. 認知症の人の医学・行動・心理的理解 5 | 1. 認知症の予防、認知症の人の心理的理解について | 1 |
| 7. 認知症の人の生活理解 1 | 1. 認知機能の変化と生活環境との関係について | 1 |
| 8. 認知症の人の生活理解 2 | 1. 認知症の人の生活の理解と支援などについて | 1 |
| 9. 認知症の人への関わりの基本などについて | | 1 |
| 10. 地域のサポート体制、チームアプローチなどについて | | 1 |
| 11. 家族としての認知症への関わりや家族ケアについて | | 1 |
| 12. 認知症対策や介護保険制度などについて | | 1 |
| 13. 認知症サポーター養成講座 | | 1 |
| 14. 「認知症の理解」の総括 1 | | 1 |
| 15. 「認知症の理解」の総括 2 | | 1 |
| | 合計 | 15 |
| | 授業単位数 | 1 |

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|--------------|---|-----|
| 科目名 | 発達と老化の理解 I (介護職員資格講座) | |
| 担当教員の実務経験 | 介護福祉士養成施設教員 | |
| 対象学生 | 総合福祉学科 1年・2年 | |
| 授業時間数・単位数 | 15コマ | 1単位 |
| 授業方法 | 講義 [O] ・ 演習 [] ・ 実習 [] | |
| 授業の概要 | | |
| 授業の到達目標 | 発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化およびその特徴に関する基本的な知識を習得する。 | |
| 成績評価方法と基準 | 試験及びレポート80%、学習への取り組み20% | |
| 準備学習・時間外学習 | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | <p>【講義時使用テキスト】 最新 介護福祉士養成講座テキスト 第12巻「発達と老化の理解」</p> <p>【参考文献】 医学一般／メヂカルフレンド社、得意になる解剖生理／照林社 人体の構造と機能／メディカ出版、体の地図帳／講談社</p> | |
| 授業上の注意点 | 授業最後のリアクションペーパー提出で出席とする。 | |
| | 授業計画 (内容) | コマ数 |
| | 1. 人間の成長と発達の基礎的知識 ～成長・発達の考え方 | 1 |
| | 2. 人間の成長と発達の基礎的知識 ～成長・発達の原則・法則 | 1 |
| | 3. 人間の成長と発達の基礎的知識 ～成長・発達に影響する要因 | 1 |
| | 4. 発達理論 | 1 |
| | 5. 発達段階と発達課題 | 1 |
| | 6. 身体的機能と成長と発達 | 1 |
| | 7. 心理的機能の発達 | 1 |
| | 8. 社会的機能の発達 | 1 |
| | 9. 老年期の特徴と発達課題 | 1 |
| | 10. 老年期にともなう身体的な変化と生活への影響 | 1 |
| | 11. 老年期にともなう心理的な変化と生活への影響 | 1 |
| | 12. 老年期にともなう社会的な変化と生活への影響 | 1 |
| | 13. 高齢者の症状・疾患の特徴 | 1 |
| | 14. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 | 1 |
| | 15. 保険医療職との連携 | 1 |
| | 合計 | 15 |
| | 授業単位数 | 1 |

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|--------------|---|------------|
| 科目名 | 障害の理解Ⅰ（介護職員資格講座） | |
| 担当教員の実務経験 | 看護師 | |
| 対象学生 | 総合福祉学科1年生 | |
| 授業時間数・単位数 | 15コマ | 1単位 |
| 授業方法 | 講義 [○] ・ 演習 [] ・ 実習 [] | |
| 授業の概要 | 障害者基本法などに定められている障害を中心にその理解と対応を学ぶ。 | |
| 授業の到達目標 | 障害の種類・原因・特性を理解する。障害を持ったヒトのこころを理解し、障害をどのようにカバーしていくかを考える。 | |
| 成績評価方法と基準 | 試験及びレポート80%、学習への取り組み20% | |
| 準備学習・時間外学習 | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 【講義時使用テキスト】 最新介護福祉士養成講座 14 障害の理解／中央法規出版 【参考文献】 医学一般／メヂカルフレンド社、得意になる解剖生理／照林社 人体の構造と機能／メディカ出版、体の地図帳／講談社 | |
| 授業上の注意点 | 授業最後のリアクションペーパー提出で出席とする。 | |
| | 授業計画（内容） | コマ数 |
| 1. | 科目オリエンテーション 障害の概念を学ぶ。 | 1 |
| 2. | 障害者の基本理念を理解する。ICF の理解 | 1 |
| 3. | 障害者福祉に関する制度を理解する 障害者福祉制度と介護保険制度を理解する。 | 1 |
| 4. | 運動機能障害を理解する。 運動機能障害とその原因疾患について学ぶ。 | 1 |
| 5. | 視覚障害を理解する。 | 1 |
| 6. | 聴覚・言語障害を理解する。 視覚障害、言語障害、聴覚障害の不自由を学び、対応や支援の留意点を理解する。 | 1 |
| 7. | 内部障害（心機能障害・腎機能障害）を理解する。 臓器別の疾患の原因疾患と症状を理解する。 | 1 |
| 8. | 重症心身障害を理解する。 重症心身障害の考え方、生活上の困難、現在の支援制度を理解し、必要な支援について学ぶ。 | 1 |
| 9. | 知的障害を理解する。 知的障害の種類とその原因について学び、どのような支援が必要かを理解する。 | 1 |
| 10. | 精神障害を理解する。精神障害の種類と特異性について理解し、どのような支援が必要かを学ぶ。 | 1 |
| 11. | 高次脳機能障害を理解する。高次脳機能障害について理解し、どのような支援が必要かを学ぶ。 | 1 |
| 12. | 発達障害を理解する。 発達障害がどのようなものか、原因疾患と症状を理解する。また、どのような支援が必要かを学ぶ。 | 1 |
| 13. | 難病、特に指定難病の現状を理解し、難病患者に必要な支援について学ぶ。 | 1 |
| 14. | 障害のある人への支援・地域のサポート体制を理解する。 | 1 |
| 15. | 障害のある方の家族への支援を学ぶ。家族を支援する社会資源を理解する。 | 1 |
| | 合計 | 15 |
| | 授業単位数 | 1 |

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|--|---|-----|
| 科目名 | 医療的ケアⅠ（介護職員資格講座） | |
| 担当教員の実務経験 | 看護師 | |
| 対象学生 | 総合福祉学科1年 | |
| 授業時間数・単位数 | 15コマ | 1単位 |
| 授業方法 | 講義 [○] ・ 演習 [] ・ 実習 [] | |
| 授業の概要 | <p>医療的ケアの実施に関する制度の概要及び医療的ケアと関連づけた「個人の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」、「医療的ケアを実施するための感染予防」、「安全管理体制」等についての基礎的知識を理解する。</p> <p>喀痰吸引・経管栄養について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的知識、実施手順方法を理解する。</p> | |
| 授業の到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護職が実施する医療的ケアの法的根拠・目的・範囲を述べることができる。 2. 医療の倫理を遵守し、チーム医療を担う一員であることを自覚して実践にあたる重要性を理解できる。 3. 呼吸器系のしくみとはたらき、以上の兆候について説明できる。 4. 喀痰吸引・経管栄養を必要とする対象者の特徴を述べるができる。 5. 喀痰吸引・経管栄養を必要とする対象者・家族の気持ちを考えることができる。 6. 喀痰吸引・経管栄養による危険、感染について説明できる。 | |
| 成績評価方法と基準 | <p>試験及びレポート80%、学習への取り組み20%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価を行う。但し、「医療的ケア」演習が手順通りできなければ不可とする。（「喀痰吸引等研修実施要綱」（平成24年3月30日付 社援発0330第43号 厚生労働省通知）に定められた実施手順通りに実施できる事とし、合格不合格にて評価する。）</p> | |
| 準備学習・時間外学習 | 授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。 | |
| 使用教科書・教材・参考書 | <p>【講義時使用テキスト】 最新介護福祉士養成講座 15 医療的ケア／中央法規出版</p> <p>【参考文献】 随時、紹介する。</p> | |
| 授業上の注意点 | 授業最後のリアクションペーパー提出で出席とする。 | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| 1. 医療的ケアとは | | 1 |
| 2. 医行為について | | 1 |
| 3. 清潔保持と感染予防 | | 1 |
| 4. 療養環境の清潔、消毒法 | | 1 |
| 5. 健康状態の把握 | | 1 |
| 6. 喀痰吸引とは | | 1 |
| 7. 人工呼吸器と喀痰吸引 | | 1 |
| 8. 子どもの吸引、吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応 | | 1 |
| 9. 吸引の技術と留意点 | | 1 |
| 10. 喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認と急変時の対応 | | 1 |
| 11. 経管栄養とは | | 1 |
| 12. 注入する栄養剤に関する知識 | | 1 |
| 13. 経管栄養実施上の留意点 | | 1 |
| 14. 子どもの経管栄養について、経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応 | | 1 |
| 15. 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認と急変時の対応 | | 1 |
| 合計 | | 15 |
| 授業単位数 | | 1 |

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|---------------------------|---|-----|
| 科目名 | 医療的ケアⅡ(演習)(介護職員資格講座) | |
| 担当教員の実務経験 | 看護師 | |
| 対象学生 | 総合福祉学科 1年 | |
| 授業時間数・単位数 | 15コマ | 1単位 |
| 授業方法 | 講義[]・演習[○]・実習[] | |
| 授業の概要 | 医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。 | |
| 授業の到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療的ケアを実施する際の手順・留意点を述べることができる。 2. 安全・適切に喀痰吸引を実施することができる。 3. 安全・適切に経管栄養を実施することができる。 | |
| 成績評価方法と基準 | <p>試験及びレポート80%、学習への取り組み20%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価を行う。但し、「医療的ケア」演習が手順通りできなければ不可とする。(「喀痰吸引等研修実施要綱」(平成24年3月30日付 社援発0330第43号 厚生労働省通知)に定められた実施手順通りに実施できる事とし、合格不合格にて評価する。)</p> | |
| 準備学習・時間外学習 | 授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。 | |
| 使用教科書・教材・参考書 | <p>【講義時使用テキスト】 最新介護福祉士養成講座 15 医療的ケア／中央法規出版</p> | |
| 授業上の注意点 | | |
| 授業計画(内容) | | コマ数 |
| 1. 医行為と医療的ケア | | 1 |
| 2. 安全な療養生活 | | 1 |
| 3. 清潔保持と感染予防 | | 1 |
| 4. 健康状態の把握 | | 1 |
| 5. 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 | | 1 |
| 6. 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説 | | 1 |
| 7. 高齢者および障害児・者の経管栄養概論 | | 1 |
| 8. 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説 | | 1 |
| 9. 口腔内および鼻腔内の喀痰吸引の実施方法 | | 1 |
| 10. 気管カニューレ内部の喀痰吸引の実施方法 | | 1 |
| 11. 胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養の実施方法 | | 1 |
| 12. 経鼻経管による経管栄養の実施方法 | | 1 |
| 13. 経鼻経管による経管栄養の実施方法 | | 1 |
| 14. 救急蘇生法 | | 1 |
| 15. AED使用の手順 | | 1 |
| | 合計 | 15 |
| | 授業単位数 | 1 |

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|-------------------------|--|-----|
| 科目名 | 実務者研修総合演習（介護職員資格講座） | |
| 担当教員の実務経験 | 特別養護老人ホーム、通所介護事業所 | |
| 対象学生 | 総合福祉学科 1年生 | |
| 授業時間数・単位数 | 20コマ ・ 1 単位 | |
| 授業方法 | 講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [] | |
| 授業の概要 | 利用者の状態・状況に合わせた的確な介護が実践できる人材を育成することを目指したカリキュラムに沿って学んだ専門的な医学の知識や介護実践に関連する制度の知識等、基準に達しているか評価する。 | |
| 授業の到達目標 | 介護福祉士実務者研修必須課題・問題について標準的な評価に達する | |
| 成績評価方法と基準 | 介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。 | |
| 準備学習・時間外学習 | 授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。 | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 「最新介護福祉士養成講座」全巻 中央法規出版 | |
| 授業上の注意点 | 提出課題の合格が必須 | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| 1. 科目「人間の尊厳と自立」課題 | | 1 |
| 2. 科目「人間関係とコミュニケーション」課題 | | 1 |
| 3. 科目「社会の理解」課題 | | 1 |
| 4. 科目「介護の基本」課題 | | 1 |
| 5. 科目「コミュニケーション技術」課題 | | 5 |
| 6. 科目「生活支援技術」課題 | | 1 |
| 7. 科目「介護過程の展開」課題 | | 1 |
| 8. 科目「こころとからだのしくみ」課題 | | 3 |
| 9. 科目「発達と老化のしくみ」課題 | | 1 |
| 10. 科目「認知症の理解」課題 | | 1 |
| 11. 科目「障害の理解」課題 | | 1 |
| 12. 科目「医療的ケア」課題 | | 3 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | 合計 | 20 |
| | 授業単位数 | 1 |

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | | |
|-------------------------|---|---------------|-----|
| 科目名 | 形態別障害論（手話） | | |
| 担当教員の実務経験 | 聴覚障害者協会 | | |
| 対象学生 | 総合福祉学科・心理学科・社会福祉学科 1年生 | | |
| 授業時間数・単位数 | 11コマ ・ 1 単位 | | |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [] | | |
| 授業の概要 | 聴覚障害について理解を深め、コミュニケーション手段としての手話について理解を深める。 | | |
| 授業の到達目標 | 1. 聴覚障害や手話について、正しい理解をする。 2. 聴覚障害者への対応方法（コミュニケーション手段等）を身につける。 3. 対人コミュニケーションの大切さを理解する。 | | |
| 成績評価方法と基準 | 筆記・実技試験の合格 | | |
| 準備学習・時間外学習 | 授業の復習をし確実に身につけるように取り組んでください。 | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 講師作成のレジメを参照 | | |
| 授業上の注意点 | 授業に集中できる環境を作ってください。 | | |
| 授業計画（内容） | | | |
| | | | コマ数 |
| 1. 講義① 聴覚障害について | 実技① | 身体表現（手話での挨拶Ⅰ） | 1 |
| 2. 講義② 手話言語とは | 実技② | 身体表現（手話での挨拶Ⅱ） | 1 |
| 3. 講義③ 聴覚障害者のハンディキャップとは | 実技③ | 自己紹介（挨拶・名前） | 1 |
| 4. 講義④ 聴覚障害者の社会活動とその成果 | 実技④ | 自己紹介（数字・家族構成） | 1 |
| 5. 講義⑤ 聴覚障害者への対応術 | 実技⑤ | 趣味を話そう | 1 |
| 6. 実技⑥ 誕生日、星座、欲しいプレゼント | 実技⑦ | 好きな季節・好きな理由 | 1 |
| 7. 実技⑧ 得意なスポーツ、苦手なもの | 実技⑨ | 時間の表し方 | 1 |
| 8. 実技⑩ 私の旅行したいところ | 実技⑪ | 日曜日を話します | 1 |
| 9. 実技⑫ 総合演習Ⅰ（表情の表現） | 実技⑬ | グループ発表 | 1 |
| 10. 実技⑭ 総合演習Ⅱ（手話で歌う） | 実技⑮ | グループ発表 | 1 |
| 11. テスト | | | 1 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | 合計 | 11 |
| | | 授業単位数 | 1 |

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|--------------|--|------|
| 科目名 | 栄養学 | |
| 担当教員の実務経験 | 管理栄養士として事業所等での実務経験 | |
| 対象学生 | 総合福祉学科・社会福祉学科・心理学科 2年 | |
| 授業時間数・単位数 | 14 コマ | 1 単位 |
| 授業方法 | 講義 [○] ・ 演習 [] ・ 実習 [] | |
| 授業の概要 | 生活構造の変化に応じて食生活も多様となるが、求められる機能と現状を理解する。 | |
| 授業の到達目標 | さまざまな栄養素と食品、健康維持・増進のために必要な食生活の基礎知識を理解する。 | |
| 成績評価方法と基準 | 出席15%、レポート課題の達成度80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価 | |
| 準備学習・時間外学習 | 前回のプリント課題の復習 | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 【講義時使用テキスト】 大学で学ぶ食生活と健康のきほん／（株）化学同人 | |
| 授業上の注意点 | 積極的に授業に参加し、生活課題について考察する。 | |
| | 授業計画（内容） | コマ数 |
| | 1. 私たちの食生活と健康 | 1 |
| | 2. 炭水化物 —その体内での働き— | 1 |
| | 3. たんぱく質 —その体内での働き— | 1 |
| | 4. 脂質 —その体内での働き— | 1 |
| | 5. ビタミンとミネラル —その体内での働き— | 1 |
| | 6. 食品の機能性 | 1 |
| | 7. 妊娠期・授乳期の食生活と健康 | 1 |
| | 8. 乳児期・幼児期の食生活と健康 | 1 |
| | 9. 学童期・思春期の食生活と健康 | 1 |
| | 10. 成人期・更年期の食生活と健康 | 1 |
| | 11. 高齢期の食生活と健康 | 1 |
| | 12. 健康づくりと食生活 | 1 |
| | 13. 食生活と安全 | 1 |
| | 14. 日本の伝統的食文化「和食」 他 | 1 |
| | 合計 | 14 |
| | 授業単位数 | 1 |

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|--|---|-----|
| 科目名 | 生活とアクティビティ・ケア・サービス | |
| 担当教員実務経験 | 別養護老人ホーム、デイサービス介護職員 | |
| 対象学生 | 総合福祉学科 1 年 | |
| 授業時間数・単位数 | 15 コマ ・ 1 単位 | |
| 授業方法 | 講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [] | |
| 授業の概要 | アクティビティの意義を理解し、「いきいき」と快い体験しながら生活の活性化支援の在り方・実践方法を学ぶ。 | |
| 授業の到達目標 | アクティビティがQOL（人生の質、生命の質）に影響を与え、尊厳と自立を尊重することにつながることや支援の方法が理解できる。 | |
| 成績評価方法と基準 | 出席率、提出物、課題等を総合的に判断して評価する。 | |
| 準備学習・時間外学習 | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 「改訂アクティビティ・サービス ―心身と生活の活性化を支援する」 中央法規出版 他 | |
| 授業上の注意点 | | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| 1. 生活支援学としてのアクティビティ・サービス クラフトを活用したアクティビティ～飛び出すカード作り | | 1 |
| 2. 日常生活用品を活用したアクティビティ～保冷剤再利用の芳香剤作り | | 1 |
| 3. 日常生活場面でのアクティビティ～似合う色探しをしてみよう | | 1 |
| 4. 趣味活動のアクティビティ～新聞紙を活用したちぎり絵表現 | | 1 |
| 5. 家事や職歴を生かすアクティビティ～お裁縫をしてみよう | | 1 |
| 6. 回想を促すアクティビティ | | 1 |
| 7. 身体活動のアクティビティ | | 1 |
| 8. 知的活動のアクティビティ | | 1 |
| 9. おやつアクティビティ | | 4 |
| 10. 浴衣の着付け | | 2 |
| 11. ものづくり（米ぬか石鹸） | | 1 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| 合計 | | 15 |
| 授業単位数 | | 1 |

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|---------------------|---|-----|
| 科目名 | 介護総合演習・介護実習Ⅰ | |
| 担当教員の実務経験 | 特別養護老人ホーム、通所介護事業所 | |
| 対象学生 | 総合福祉学科 1年生 | |
| 授業時間数・単位数 | 15 コマ ・ 1単位 | |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [○] | |
| 授業の概要 | 1. 会議実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。 2. 地域における様々な場において、対象者の生活理解する学習とする。 | |
| 授業の到達目標 | 介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得する。 | |
| 成績評価方法と基準 | 成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。試験結果、出席率等を総合的に判断して評価 | |
| 準備学習・時間外学習 | 授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。 | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 中央法規「最新介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習」 | |
| 授業上の注意点 | | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| 1. 介護総合演習の目的 | | 1 |
| 1. 介護実習の意義と目的 | | 1 |
| 3. 介護実習の種類 | | 1 |
| 4. 介護実習前の学習の意義と目的 | | 1 |
| 5. 介護実習中の態度 | | 1 |
| 6. 実習先の特徴 | | 4 |
| 7. 実習先での学び、実習記録の書き方 | | 1 |
| 8. 実習① デイサービス | | 4 |
| 9. まとめ | | 1 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| 合計 | | 15 |
| 授業単位数 | | 1 |

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|----------------|---|--------|
| 科目名 | 健康予防管理専門士資格講座 | |
| 担当教員の実務経験 | 看護師 | |
| 対象学生 | 総合福祉学科 1年 | |
| 授業時間数・単位数 | 15 コマ | ・ 1 単位 |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [] | |
| 授業の概要 | 健康予防管理専門士試験に向けて学習を進めるとともに、未然に病気を防ぐ環境づくり・体力づくり・生活づくりを学ぶ。 | |
| 授業の到達目標 | 健康の保持と増進を進める具体的な方法や技術を身につける | |
| 成績評価方法と基準 | 試験及びレポート80%、学習への取り組み20% | |
| 準備学習・時間外学習 | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | 「健康予防管理専門士試験 公式テキスト」一般社団法人総合ケア推進協議会 | |
| 授業上の注意点 | | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| 健康予防管理・指導の基礎知識 | <ul style="list-style-type: none"> ① 健康の定義、維持・増進・予防 ② メタボリックシンドロームの定義・診断基準・対策 ③ 生活習慣病と生活習慣・食事 ④ 疾病構造の変化 | 2 |
| 健康づくりの基礎知識 | <ul style="list-style-type: none"> ① 栄養と栄養素 ② 喫煙と健康 ③ アルコールと健康 ④ 生活習慣病と運動 | 2 |
| 健康づくりの実践 | <ul style="list-style-type: none"> ① 食事バランスガイド ② 日本人の食事摂取基準2015 ③ 食品標準成分表 ④ 糖尿病食事療法のための食品交換表 ⑤ 嚥下障害の基礎知識と食事 ⑥ 高齢者の身体的特徴と介護予防 ⑦ たんぱく質・エネルギー低栄養状態の基礎知識および栄養と予防 ⑧ 保健機能食品 ⑨ サプリメントの基礎知識 ⑩ 薬剤と食品成分との相互関係 | 4 |
| 運動による健康づくり | <ul style="list-style-type: none"> ① 日本人の健康と国の健康増進対策 ② 健康づくりの運動とは | 2 |
| 生活習慣病と予防の知識 | <ul style="list-style-type: none"> ① 肥満症の基礎知識および治療と予防 ② 死亡肝の基礎知識および治療と予防 | 5 |

| | |
|--------------|-------|
| ③ 高血圧症 | |
| ④ 脂質異常症 | |
| ⑤ 糖尿病 | |
| ⑥ 慢性腎臓病（CKD） | |
| ⑦ 動脈硬化 | |
| ⑧ がん（悪性新生物） | |
| ⑨ 骨粗鬆症 | |
| ⑩ 高尿酸血症・痛風 | |
| ⑪ 生活習慣病 | |
| | 合計 |
| | 授業単位数 |
| | 15 |
| | 1 |

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|---------------|--|-----|
| 科目名 | 総合実践 I | |
| 担当教員の実務経験 | 特別養護老人ホーム、通所介護事業所 | |
| 対象学生 | 総合福祉学科 1 年 | |
| 授業時間数・単位数 | 15 コマ ・ 1 単位 (左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり) | |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [] | |
| 授業の概要 | 総合的な学習によって、充実した学生生活を送ること。 | |
| 授業の到達目標 | 総合的な学習によって、充実した学生生活を送ることができることを目標とします。 | |
| 成績評価方法と基準 | 成績評価基準は、A (80 点以上) ・ B (60 点以上) ・ C (40 点以上) ・ D (40 点未満) とし、平常点によって評価します。 | |
| 準備学習・時間外学習 | | |
| 使用教科書・教材・参考書 | | |
| 授業上の注意点 | | |
| 授業計画 (内容) | | コマ数 |
| (1) 校外研修 | | 8 |
| (2) その他学校行事など | | 7 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| 合計 | | 15 |
| 授業単位数 | | 1 |

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

| | | |
|--|---|-----|
| 科目名 | メンタルケア概論 | |
| 担当教員の実務経験 | | |
| 対象学生 | 総合福祉学科1,2年生 心理学科1年生 社会福祉学科1年生 | |
| 授業時間数・単位数 | 30 コマ ・ 2 単位 | |
| 授業方法 | 講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [] | |
| 授業の概要 | 基礎心理学を中心にこころのメカニズムを知識として理解し、医療・福祉・教育・産業等での相談援助及び心理カウンセリング業務やコミュニケーション向上で求められる応用能力を培う。 | |
| 授業の到達目標 | メンタルケア心理士又はこころ検定の取得を通してメンタルケアに関する知識を習得できる。 | |
| 成績評価方法と基準 | 出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価 | |
| 準備学習・時間外学習 | 検定試験対策問題の復習を行うこと | |
| 使用教科書・教材・参考書 | メンタルケア学会編集「メンタルケア心理士」 こころ検定対策問題集 | |
| 授業上の注意点 | | |
| 授業計画（内容） | | コマ数 |
| 1. 学習ガイダンス、生化学基礎（染色体と遺伝子、たんぱく質、酵素、脂肪、炭水化物） | 1 | |
| 2. ストレス学基礎（ストレスと身体の反応、心理学的研究） | 1 | |
| 3. 解剖生理学 組織・器官、骨格・筋肉 | 1 | |
| 4. 消化器系 | 1 | |
| 5. 循環器・血液・リンパ系 | 1 | |
| 6. 呼吸器、泌尿器、生殖器 | 1 | |
| 7. 感覚器、内分泌系 | 1 | |
| 8. 脳・神経系 | 1 | |
| 9. 生理心理学と認知心理学（感情、脳波、睡眠・夢、時間感覚、記憶） | 1 | |
| 10. 薬理学基礎 | 1 | |
| 11. 精神医学の歴史 | 1 | |
| 12. 精神疾患の分類 | 3 | |
| 13. 発達心理学（発達課題、愛着の形成、アイデンティティの形成） | 3 | |
| 14. 発達・睡眠・摂食・性格における障害 | 3 | |
| 15. 身体疾患と精神症状 | 3 | |
| 16. 薬剤論 | 3 | |
| 17. カウンセリング基礎知識 | 1 | |
| 18. カウンセリングにおける倫理 | 1 | |
| 19. 心理療法基礎 | 1 | |
| 20. ケーススタディ | 1 | |
| 合計 | | 30 |
| 授業単位数 | | 2 |